



みよし

令和2年5月25日

文責 久保島 修

新緑が目に見える5月ですが・・・。

新緑が目に見える5月を迎えましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、通常の教育活動ができない日が続いています。休校が続いているため、子供たちの元気な姿を見ることもあまりできませんでした。

例年ですと5月の学校だよりは、年度が替わり子供たちの1か月の様子や行事等について書くことが多いのですが、臨時休業が続いたために他のことを書かなくてはなりません。

子供たちも保護者の皆さまも、この状態がいつまで続くのかの中中で多くの不安を抱えていらっしゃるかもしれませんが、前向きに考えながら「今しかできないこと」「今だからできること」に挑戦してみるにふさわしい時期ととらえてみてはいかがでしょうか。

料理や読書、家の手伝い、調べ学習等、子供たちにとって興味のもてることでよいですから、何か1つでもやってみることが大切だと思います。普段できないことといってもたくさんあるでしょうが、決まった時間に自分で起きるとか布団をたたむとか、できそうなことから始めるとよいと思います。運動不足が気になるならば毎日決まった時間に体を動かすこともよいでしょう。大切なことはそれを続けることです。日々の生活の中で習慣づけるよいきっかけとなるはずですよ。もちろん、できたことやがんばったことに対しては、褒めたり励ましたりしてあげてください。いつまでこの状態が続くかはわかりませんが、この状態の中でいかに心身の健康を保つか、そして悲観的になるばかりではなく物事を前向きに考えながら行動できるかといったことが大切だと思います。そして、将来子供たちが「コロナ休校のとき、こんなことをがんばった。こんなことができるようになった」と、自信をもって言えるようになればと思います。

新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で、これからも刻一刻、状況が変化することが考えられます。学校が再開しても、本校では健康観察や「三密」を避ける指導、換気等配慮をまいります。一学期に予定されている行事や活動等も時間短縮をしたり延期や中止をしたりすることも考えられますので、保護者の皆様の御理解、御協力をお願いいたします。



☆冬のヒマワリ 「不思議」を大切に

～校長雑感～

高校三年生の息子がまだ小学生のとき、学校からもらってきたヒマワリの種を冬に植えようとしていました。「冬だから咲かないよ」と教えても「やってみないと分からないよ」と言って大事そうに植えていました。

2月になり「お父さん、咲いたよ！」と得意気な息子。寒空の下、背は低いのですが見事に花が開いていました。聞くと、水やりをしながら世話をしていたそうです。冬にヒマワリが咲くなんてありえないと思っていた私は、

既存の知識だけでものを書いてしまったことを恥ずかしく思うとともに、ヒマワリの生命力の素晴らしさに驚かされました。そして、息子の植物への好奇心や探究心を大切にしたいと思いました。

理科は算数と同様に、他の教科と比べると人気がない教科といわれています。「理科離れ」という言葉をよく耳にします。私も学生時代、原子記号を覚えたり、密度や仕事量を計算で求めたりすることに頭を抱えた記憶があります。理科離れの原因は、子供たちを取り巻く環境の変化など様々な点が挙げられていますが、小学校段階での“理科”や低学年での“生活科”の中に、本当の意味の「学び」がたくさん詰まっていることは確かです。

生活に結びついた環境の中で、経験を積み重ねることこそが、子供たちの知的好奇心や探究心を育む大切な学びの基盤になると考えます。近所の公園や道ばたで、「あれっ!」「何だろう?」と不思議に思い、「面白い」「すごい」と感じる心を持っていることが出発点です。そして、そこには子供の気付きや発見に「本当だ」「よく気付いたね」と寄り添ってあげる大人の存在が不可欠です。

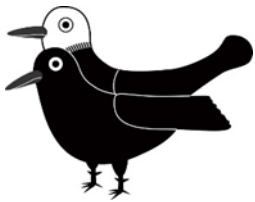
息子の言葉を借りれば、学校は「やってみないと分からないこと」があふれている場、言い換えれば「やってみたいこと」があふれている場でありたいと考えます。子供のつぶやきや行動から心の動きを読み取り、価値あるものへと意味付けていくことが教師の大切な役目の一つです。子供の「不思議」に寄り添える学校づくり、教員集団づくりを目指していきます。

☆妖怪「アマビエ」・「ヨゲンノトリ」??

みなさん！妖怪「アマビエ」・「ヨゲンノトリ」をご存知ですか。

アマビエは、人魚のような姿をした妖怪で、江戸時代に肥後の国（現在の熊本県の海に現れ、疫病の到来を予言したとされます。疫病の流行を封じる願いを込めて、さまざまな場所で、さまざまな人によってアマビエが描かれたりしているそうです。

最近のニュースでも、新型コロナウイルスの終息への願いと、町の人や子供たちを元気づけたいとの思いから、木材で彫られたアマビエが町の中に置かれたり、小学校の校庭にアマビエの地上絵が描かれたりしている様子が紹介されていました。



ヨゲンノトリは安政5（1858）年、当時流行していたコレラの様子を市川村（現・山梨県 山梨市）の村役人、喜左衛門（きちざえもん）が記した「暴瀉病（ぼうしゃびょう）流行日記」に描かれていそうです。カラスのような黒い鳥だが、頭が2つあり、1つは白い。日記には、ヨゲンノトリが「来年の8、9月ごろ、世の中の人々が9割方死ぬ難が起こる。私の姿を朝夕に仰ぎ、信心するものは必ずその難を逃れることができるだろう」と話したと書かれているそうです。（山梨県立博物館 所蔵）

「アマビエ」や「ヨゲンノトリ」への注目は、新型コロナウイルスに対する不安の裏返しなのかもしれません。未知なる病との接触は、歴史的に何度も起こってきたことです。得体のしれない病氣、特に伝染病の驚異に対して、人々はどのように考え、行動したのでしょうか。

終息を願う気持ちは皆同じ。その気持ちをどのように表していくか。日々の行動も含めて、自分事として考えていかなければなりませんね。

☆知っていますか「児童憲章」

子供は、地球の未来をつくる大切な存在です。戦後、すべての子供たちの幸せを願い、どうしたら幸せになれるのか、大人たちが集まって考えました。そして1951年5月5日の「こどもの日」に、「児童憲章」という「子供と大人の大切な12の約束」を制定しました。法律ではなく児童の福祉を図るための国民的約束（規範）であるため法的拘束力はありませんが、児童福祉や教育に対して施すべき対策を考える上で、今でも基本となる原則となっています。

児童憲章

われらは、日本国憲法の精神にしたがい、児童に対する正しい観念を確立し、すべての児童の幸福をはかるために、この憲章を定める。

児童は、人として尊ばれる。

児童は、社会の一員として重んぜられる。

児童は、よい環境のなかで育てられる。



◎学校における感染防止対策習慣化（新たな生活様式）をしていきます！

学校再開に向けて谷村第二小学校では以下の対応を教職員、児童で徹底していきます。

- ①検温の確認
- ②手洗い、うがい、消毒
- ③無言で給食
- ④教室、トイレ等のノブの消毒
- ⑤こまめな健康観察、声かけ（体調不良の早期把握）
- ⑥ソーシャルディスタンス（最低1m）の徹底

・対面式を避ける・机の間隔・休憩時間の過ごし方

・指導中の教師と児童の向き、距離 **御家庭でも心がけ、習慣化していきましょう。**



くっつかないモン
#KeepDistance